

竜王北中学校 学校関係者評価書（前期）

平成26年7月18日（金）
竜王北中学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成26年7月16日（水）午後5時15分～

会 場：竜王北中学校校長室

参加者：（学校関係者評価委員）

石合 廣光 中島 民雄 今村 和美 小尾 裕子
名取 一子 岡月 美和

（学校側）

深沢 勝彦 小林 大 高橋 光明

I 学校側から提案された内容

- ・平成26年度自己評価書（前期）
- ・平成26年度自己評価シート集計結果表
- ・平成26年度 第1回 中学生用アンケート集計結果表

II 協議された主な内容

- ・平成26年度自己評価書（前期）は、本校の実態を踏まえ改善策が示されているものであるか。
- ・本校の教育活動についての質疑とそれに対する意見および今後の改善内容

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・肯定的な回答（Aそう思う Bややそう思う の合計）がほぼ全項目で80%を超え、教職員が高い意識で教育活動に取り組んでいる。
- ・市全体の教員の評価結果とほぼ同じ傾向を示している。
- ・本校のオリジナル項目としている「活用する授業づくり」「学校行事に進んで取り組むような指導」「弾力的な日課を生かした指導」「生徒が発表活動に主体的に取り組むような指導」について肯定的な回答は90%を超えている。
- ・肯定的な回答が80%を下回る項目はV①「地域の人材や施設の利用」の62.5%、及びV④「PTA活動への主体的な参加」の77.7%のみであった。
- ・平成26年度自己評価書（前期）は、概ねこの通りのものでよい。
- ・改善策（手立て）をより具体的なものとして実行してほしい。

Ⅱ 特 徴

- ・ 人が困っているときに進んで助けるような人間にするために、高齢者介護施設で、ボランティアなどの時間を増やしてほしい。また、高齢化社会に向けて認知症などに関する勉強もしていく必要があるのではないかな。
- ・ 中だるみの学年と言われる２学年が、高い数値を示している。これは、普段の生活の中で、自分たちで進めていこうという自主・自立の精神が育ってきているからだと思われる。また、生活面で子ども達が落ち着いていることが大きい。学力も２年になってさらに向上している。
- ・ 小中連携の意味として、一つはお互いに授業を見合うなど、日常の交流が大切である。
- ・ 下駄箱にきちんと靴を入れる。靴を入れたら最後に手でとんとんと押してそろえる、その一手間が学校全体の温かさにつながっていく。
- ・ アンケート結果を見ると、子ども達が前向きである。また、教職員も厳しい自己評価をして、さらに上を目指そうという気概を感じるので、エールを送りたい。
- ・ 不登校対策については、不登校の生徒数の増減にとらわれるのではなく、なぜ不登校になったのか、カウンセラーを含めた見極めを行ってもらいたい。家庭の経済的な問題等で来られない場合もある。主任児童民生委員などを含めた関連機関との連携をより積極的に行うことにも留意してもらいたい。
- ・ 不登校の生徒の立ち直りは難しい。３年では進路ということで、立ち直る場合もある。自習教室で勉強に自信をもたせてから、教室に戻すことも考えられるのではないかな。
- ・ 北中の生徒は地域でのあいさつがしっかりできている。また、地域の河川清掃についても、子ども達が積極的に参加している。地域の人たちも北中の生徒のことをほめている。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・ 竜王北中学校には三つの小学校から入学してくる。しかし、竜王小と竜王東小からは少ないので、入学後の生活を心配している生徒もいる。特に女子は友だち関係の悩みから不登校に陥るケースもある。そういう子ども達のケアをしっかりとやってもらいたい。例えば学校たよりを地区の回覧板でまわしてもらえると、入学前に中学校の様子がわかり不安に思う気持ちがなくなるということもあるだろう。
- ・ 学校の教育活動はチームでやることが大切である。個人だけではなく、複数の教員で対応する意識を引き続き持っていつてもらいたい。
- ・ 学校は遠慮せずにPTAに相談すべき。そこで挙げられた課題については、教師とPTAの役員が真剣に話し合う場が必要。それが地域の活性化にもつながっていく。

※特記事項

なし

記載責任者（竜王北中学校 学校関係者評価委員長） 氏名：石合 廣光 印